

株式会社 榎谷建設

2019年度 環境経営レポート

(期間:2019年6月～2020年5月)



発行日：2020年6月20日

改定日：2021年3月9日

ごあいさつ

株式会社榎谷建設は、昭和28年の設立以来、総合建設事業を通して地域社会の発展に尽力してまいりました。全従業員が地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と自然（環境）が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

《環境理念》

『人と自然が喜ぶ未来・・・』

当社は、人と自然が喜ぶ未来をテーマにかかげ、土木工事を中心とした企業として、市民の要求である安全性と信頼性の高い製品を提供し、お客様に満足を与え、常に技術と品質の向上と共に地球環境問題の保全と重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して邁進する。そして全社員の物心両面の幸福を追求する

《環境経営方針》

創意と工夫をもってお客様の満足と信頼を得て、地域社会に貢献する。地域環境保全のために、環境負荷の一層の低減を図るべく自主的・積極的に環境への取組みを推進する。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守する
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進する
(電力・ガソリン・軽油・灯油)
3. 廃棄物の削減及び再生利用を推進する
4. 建設リサイクル、再生資源の利用を推進する
5. 水使用量の削減を推進する
6. グリーン購入を推進する
7. 環境に配慮した施工を推進する
8. 環境美化活動として、地域のクリーン作戦や河川美化活動に積極的に参画する

上記の遂行にあたり、当社の業務に対するすべての要求事項に適合し、環境経営システムの有効性を継続的に改善していく中で、環境目標を各部門に展開させるとともに、適切に内容の見直しを行う。この環境方針は全従業員に周知する。

制定日：2012年6月1日

改定日：2020年12月19日

株式会社 榎谷建設
代表取締役 榎谷 宏光

II. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 榎谷建設
代表取締役 榎谷 宏光

(2) 所在地

本社・資機材置場 〒679-3403 兵庫県朝来市立脇544番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務部長 榎谷 光枝 TEL 079-678-0227
担当者 総務部 小椋 信子 FAX 079-678-1287
E-Mail: info@kayatani.co.jp

(4) 事業内容

総合建設業

(5) 設立 昭和 28年 2月 1日

(6) 資本金 4千万円

(7) 事業の規模

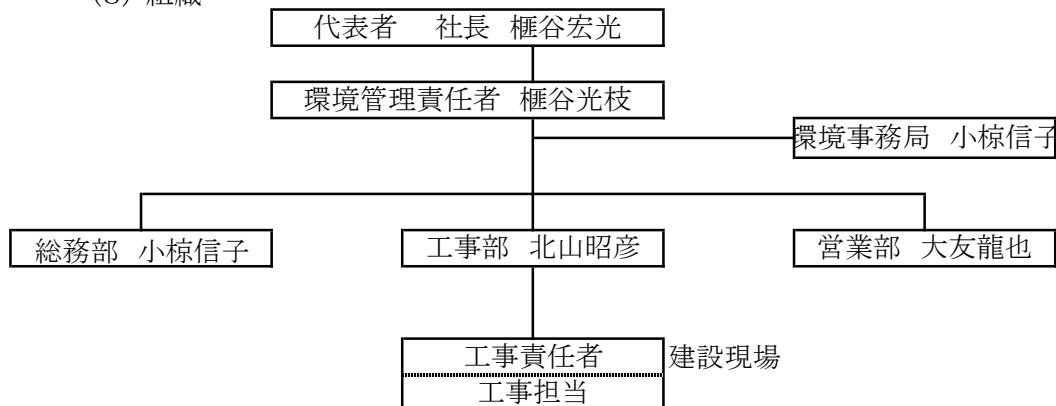
①建設業 年間工事売上高 537 百万円(令和元年度)

	本社	資機材置場
従業員	12名	0名
延べ床面積	396.27㎡	2,951㎡

保有車両重機

区分	名称	台数	型式・性能
運搬車輛	4tダンプ	2	
	2tダンプ	1	
重機	バックホウ	3	0.7m3×1、0.45m3×1、Vio45×1
	ブルドーザー	1	

(8) 組織



(9) 事業年度 6月～翌年5月

III. 認証・登録の対象範囲

登録組織名: 株式会社 榎谷建設
対象事業所: 本社・資機材置場
活動: 総合建設業
対象外: なし

IV. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2015年度 基準年度	2017年度	2018年度	2019年度	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	211,754	161,160	111,850	68,326	
電力	kWh	14,397	18,539	20,607	17,056	建設現場を含む
ガソリン	L	11,779	11,681	10,448	10,254	建設現場を含む
灯油	L	1,233	2,039	1,816	808	建設現場を含む
軽油	L	66,305	45,544	27,656	12,889	
廃棄物排出量	トン	46.292	618.552	285.773	681.783	
一般廃棄物	トン	0.142	0.152	0.133	0.137	
産業廃棄物	トン	46.15	618.40	285.64	681.57	
内 再資源化量	トン	40.72	613.85	276.73	670.91	建設工事発生分のみ
内 最終処分量	トン	5.43	4.55	8.91	10.66	
水使用量	m ³	192	204	156	156	

注1) LPGは微量のため省略した。(2019年度実績 8.28kg)

注2) 化学物質は使用していない。

□環境目標及びその実績

(1) 目標

年度		2015年度 基準年度	2019年度	2020年度	2021年度
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	211,754	203,284	201,166	199,049
			△4%	△5%	△6%
電力使用量削減	kWh	14,397	13,821	13,677	13,533
	kg-CO ₂ 対基準	7,328	7,035	6,962	6,888
灯油使用量削減	L	1,233	1,184	1,171	1,159
	kg-CO ₂ 対基準	3,073	2,950	2,919	2,888
<事務所> ガソリン 使用量削減	L	5,465	5,246	5,192	5,137
	kg-CO ₂ 対基準	12,688	12,180	12,053	11,926
<建設現場> ガソリン 使用量削減	L	6,314	6,061	5,998	5,935
	kg-CO ₂ 対基準	14,659	14,073	13,926	13,779
<建設現場> 軽油使用量削減	L	66,305	63,653	62,990	62,327
	kg-CO ₂ 対基準	174,007	167,047	165,307	163,567
II. 廃棄物削減					
<事務所> 1) 一般廃棄物削減	kg 対基準	142.8	137.1	135.7	134.2
			△4%	△5%	△6%
<建設現場> 2) 再生資源比率の向上	% 対基準	88	91.8%	92.6%	93.5%
			+4%	+5%	+6%
III. 水使用量 削減	m ³ 対基準	192	184	182	180
			△4%	△5%	△6%
IV. グリーン購入	金額 % 対基準	49.6%	51.6	52.1	52.6
			+4%	+5%	+6%
V. 環境に配慮した施 工の推進	%	100%	100%	100%	100%

注) 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、2015年度関西電力の0.509kg-CO₂/kWhを使用。

(2) 運用期間の実績

項目	年度	2015年度 基準年	運用期間における実績			
			2019年度(2019年6月～2020年5月)			
			基準値	目標	実績	達成度
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	211,754	203,284	68,326	297%	○
	対基準		△4%	△68%		
電力使用量削減	kWh	14,397	13,821	17,056	81%	×
	kg-CO ₂	7,319	7,035	8,682		
	対基準		△4%	+18%		
灯油使用量削減	L	1,233	1,184	808	146%	○
	kg-CO ₂	3,073	2,950	2,013		
	対基準		△4%	△34%		
<事務所> ガソリン 使用量削減	L	5,465	5,246	3,440	152%	○
	kg-CO ₂	12,688	12,180	7,987		
	対基準		△4%	△37%		
<建設現場> ガソリン 使用量削減	L	6,314	6,061	6,814	89%	×
	kg-CO ₂	14,659	14,073	15,819		
	対基準		△4%	+8%		
<建設現場> 軽油使用量削減	L	66,305	63,653	12,889	494%	○
	kg-CO ₂	174,007	167,047	33,825		
	対基準		△4%	△81%		
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg	142.8	137.1	137.6	100%	○
	対基準		△4%	△4%		
再生資源比率 の向上	%	88	91.8	98.4	107%	○
	対基準		+4%	+12%		
III. 水使用量削減						
	m ³	192	184.0	156	118%	○
	対基準		△4%	△19%		
IV. グリーン購入						
	金額 %	49.6%	51.6	36.1%	69%	×
	対基準		+4%	△27%		
V. 環境に配慮した施工の推進 ※注3						
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	○

[○:100%以上、△:90～100%未満、×:90%未満]

※注1・・・再生資源化効率の向上 実績98.4%(670.91/681.57t)

※注2・・・グリーン購入 実績36.1%(82,071/227,153円)

※注3・・・交通誘導員の配備、粉塵対策、騒音・振動対策、コンガラ・アスガラのリサイクル分別、
河川工事における水濁防止対策、法面への植生、再生資源の活用等。

※注4・・・電力消費量が大幅に増加した理由は、猛暑が続き、使用頻度の増加である。

建築現場の軽油使用量が大幅に減少した理由は、工事の下請先への発注増加である。

VI. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量の削減 (目標達成)		
下記のとおり		電力・現場ガソリン・灯油においては目標未達成であった、今後も全体的に削減できるように努める。
電力使用量の削減 (目標未達成)		
①不要照明の消灯	◎	ほぼできた。
②エアコン温度の適正化	○	ほぼできた。今後も一層積極的な取り組みを実施する。
③設備の空運転禁止	○	ほぼできた。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。
灯油使用量の削減 (目標達成)		
①室内温度の適正化	○	室温管理を徹底する。
②不在時点火の抑制	◎	よくできた。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。
<事務所>ガソリン使用量の削減 (目標達成)		
①移動コースの効率化	○	無駄を省く計画が定着してきたと思われる。
②アイドリングストップ・急加速・急停車の防止	◎	意識をしエコドライブを実行する。
③空気圧、オイル等の点検	○	始業点検で実施できた。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。
<建設現場>ガソリン使用量の削減 (目標未達成)		
①不要なアイドリングストップ	○	意識をしエコドライブを実行する。
②移動コースの効率化	○	無駄を省く計画を定着する。
③空気圧、オイル等の点検	○	始業点検で実施できた。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。
<建設現場>軽油使用量の削減 (目標達成)		
①重機の空ふかしの禁止	○	全員に意識付けを行う。
②急加速・急停車の防止	○	安全運転に注意して、まずまずできた。
③空気圧、オイル等の点検	○	始業点検を徹底することで、まずまずできた。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。
<事務所>一般廃棄物の削減 (目標達成)		
①ミスコピーの防止	○	印刷前の確認を十分する。
②裏紙の使用	○	ルールを決めて、全員に意識付けを行うことを徹底した。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。
<建設現場>再生資源比率の向上 (目標達成)		
選別能力の拡大と、目標値の検討	○	正確な排出量を把握しながら、削減に努める。
水道水使用量の削減 (目標達成)		
①節水意識の向上	○	節水の呼びかけ、徹底をはかる。
②樹木水遣りの効率化	○	より多くの工夫ができるようにする。
グリーン購入の比率の向上 (目標未達成)		
対象品目の調査、過去の実績購入先など調査し、目標を定める	○	可能な範囲内での事務用品のグリーン購入を実践。 今後もグリーン商品の購入を推進する。
環境に配慮した施工の推進 (目標達成)		
①再生資源の活用	○	ほぼできた。
②粉塵・騒音・振動対策	○	現場地区周辺への配慮ができた。
③交通誘導員の配備	○	事故が無いよう配慮できた。 今後も一層積極的な取り組みを実施する。

Ⅶ. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守	遵守
騒音規制法 (朝来市公害防止条例)	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法 (朝来市公害防止条例)	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
低騒音型・低振動型建設機械の規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法 (朝来市火災予防条例)	消火設備の定期点検	遵守
家電リサイクル法	廃棄時の適切な処分(許可を有する業者)	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の簡易点検と記録・保存(廃棄後3年)、漏洩防止 廃棄時の適切な処理	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

Ⅷ. 代表者による全体の評価と見直し・指示

当社は経営理念で「人と自然が喜ぶ未来・・・」をテーマにかかげ、地球環境や自然環境を重視し、次世代により良い環境を残すために取り組んでいます。

2019年度も、昨年度につづき国土交通省の工事を請負うことができ、売上高増となりました。実績をみましても二酸化炭素排出量の達成度が昨年以上に大幅な達成率となっていますが、その理由の一つとして、下請先への発注増加が影響し、現場での軽油使用量の大幅な削減に至ったと考えられます。また、電力の使用が増加した原因については、地球温暖化の影響がかなり大きいと感じています。

さらに、新型コロナウイルスが2020年初頭から急速に世界中に感染を拡大するなか、健康被害だけでなく、経済にも深刻な打撃をもたらされており、当社においても工事の一時中止などの影響もうけはじめております。

今後お互いに環境を守る意識を共有する中で、全社一丸となって環境活動に努めるとともに、マスクの着用や手指の消毒など衛生面にも留意し、自らがうつさないと言う意識の中でこのコロナ禍が早く鎮静化されるよう、感染予防に努めていきたいと考えております。

次年度の[環境方針][目標・活動計画][実施体制]についても、変更無く継続していきたいと考えております。

2020年6月20日 代表取締役 榎谷宏光